

令和 7 年度病害虫発生予察予報第 8 号（令和 7 年 11 月）

令和 7 年 11 月 7 日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
野菜類	オオタバコガ タバコガ	<u>多(県下全域)</u> <u>多(東、中央)、やや少(西)</u>
促成キュウリ	ベと病 うどんこ病 黄化えそ病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並(西)、少(中央部、中西) 平年並(西)、やや少(中央、中西) <u>多(中央、西)、やや多(中西)</u> <u>多(西、中西)、少(中央)</u> 平年並(中西)、少(中央、西) <u>多(中西、西)、やや多(中央)</u>
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ ホコリダニ類	<u>多(中央)、やや少(東)、少(西)</u> やや少(県下全域) <u>多(中央、西)、やや少(東)</u> <u>多(中央、西)、平年並(東)</u> 平年並(中央)、やや少(東)、少(西) <u>多(東、中央)、やや多(西)</u> 平年並(中央)、少(東、中西)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 黒枯病 斑点病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ チャノキイロアザミウマ タバココナジラミ ホコリダニ類	やや少(県下全域) <u>多(中央、中西)、少(東)</u> <u>多(中央)、やや少(東、中西)</u> <u>多(東、中西)、少(中央)</u> やや少(中央)、少(東、中西) <u>多(中央)、やや多(東)、少(中西)</u> <u>やや多(東)、平年並(中西)、やや少(中央)</u> <u>やや多(東、中央)、平年並(中西)</u>
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	やや少(中央) やや少(中央) <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
 なお、野菜は「土佐市」を中心部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台11月6日発表)

11月8日から12月7日までの天候見通し

<予想される向こう1か月の天候>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は多いでしょう。天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は高い確率50%、降水量は少ない、平年並の確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は平年並の確率50%です。2週目は、高い確率60%です。3~4週目は高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	20	30	50
		降水量	40		40
		日照時間	20	30	50

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	20	50	30
2週目		10	30	
3~4週目		20	30	50

<予報の対象期間>

1ヶ月：11月8日(土)～12月7日(日)

1週目：11月8日(土)～11月14日(金)

2週目：11月15日(土)～11月21日(金)

3～4週目：11月22日(土)～12月5日(金)

II 病害虫発生予想

1 野菜類の病害虫

1) オオタバコガ・タバコガ

予想 オオタバコガ発生量：多(県下全域)

タバコガ発生量：多(東部、中央部)、やや少(西部)

根拠

(1) 例年、気温の低下とともに野外密度が低下する時期であるが、フェロモントラップによる調査では、オオタバコガの誘殺数は県下全域で平年よりも多い状態が続いている。また、タバコガの誘殺数は東部、中央部で平年よりも多い状態が続いている。更に、11月の気温は平年よりも高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みが続き、現在の発生が継続すると考えられる。

対策

(1) 果実に食入した幼虫や老齢幼虫に対しては薬剤の防除効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を実施する。被害果実は見つけ次第処分する。

2 促成キュウリの病害虫

1) ベと病

予 想 発生量：平年並（西部）、少（中央部、中西部）

根 拠

- (1) 10月の調査では、中央部、西部で発生が見られ、発生面積は西部で平年並、中央部で平年より少なかった。発病程度は両地域とも平年より高かった。
- (2) 例年、11月は中央部、西部で発生が増加し、中西部で発生が見られ始める。
- (3) 11月の降水量は平年並または少ないと予想されていることや、発生状況から中央部、西部では現在の発生が継続し、中西部でも発生が見られ始めると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（西部）、やや少（中央部、中西部）

根 拠

- (1) 10月の調査では、中央部と西部で発生が見られ、発生面積は西部で平年よりやや少なく、中央部で少なかった。発病程度は中央部で平年より高く、西部で低かった。
- (2) 例年、11月はいずれの地域でも発生が増加する傾向にある。
- (3) 11月の気温は平年より高く、降水量は平年並または少ないと予想されていることや、発生状況からいずれの地域でも発生は増加し、未発生地域でも発生が見られると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。薬剤によっては、散布後も病斑の見た目が変化せず防除効果がわかりづらい場合があるため、防除後に展開した葉の発病の有無で防除効果を判断する。

3) 黄化えそ病

予 想 発生量：多（中央部、西部）、やや多（中西部）

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部で平年より多く、西部でやや多く、中西部で平年並であった。発病程度はいずれの地域でも平年以下であった。
- (2) 例年、11月には既感染株の発症が進み、発生が増加する傾向にある。
- (3) 11月の気温は平年より高いと予想されていることから、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの野外からハウス内への飛び込みが続くと考えられることや、発生状況からいずれの地域でも発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：多（西部、中西部）、少（中央部）

根 拠

- (1) 10月の調査では、中西部、西部で発生が見られ、両地域とも平年と比べて発生面積は多く、発生程度は高かった。
- (2) 例年、いずれの地域でも11月以降には気温の低下とともに減少する傾向にある。

(3) 11月の気温は平年より高いと予想されており、野外からハウス内への飛び込みが継続すると考えられることや、発生状況からいずれの地域でも現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 施設栽培では、ハウスサイドや天窓に防虫ネットの被覆を行うなど成虫の侵入防止に努める。また、交信かく乱剤(合成性フェロモン剤)の利用も有効である。
- (2) 卵塊を除去し、幼虫は見つけ次第捕殺する。なお、卵塊は植物体だけではなく防虫ネット等にも産み付けられるので注意する。
- (3) 老齢幼虫になると食害量が多くなるとともに薬剤の防除効果が低下するため、若齢期の防除に努める。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避ける。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並(中西部)、少(中央部、西部)

根 抱

- (1) 10月の調査では、中央部、中西部で発生が見られ、発生面積は中西部で平年並、中央部で平年より少なかった。発生程度は両地域とも平年並であった。
- (2) 11月の気温は平年より高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みが継続し、いずれの地域でも現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。薬剤防除の際は、かけ残しのないようていねいに散布し、特に上位葉は重点的に実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、開口部のネット被覆(0.4mm目以下)や天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中西部、西部)、やや多(中央部)

根 抱

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部、西部で平年よりも多く、中央部でやや多かった。発生程度は中西部、西部で平年より高く、中央部でやや低かった。
- (2) 例年、中央部、中西部では11月以降気温の低下とともに減少し、西部では10月から12月にかけて同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 11月の気温は平年より高いと予想され、野外からの飛び込みが継続すると考えられることや、発生状況からいずれの地域でも現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉に産卵するので、薬剤防除の際は、かけ残しのないようていねいに散布し、特に上位葉は重点的に実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、開口部のネット被覆(0.4mm目以下)や天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。
- (2) 中央部では、本虫が媒介する退緑黄化病が11月以降徐々に増加していく傾向にあるため、低密度時の防除を徹底する。

3 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多(中央部)、やや少(東部)、少(西部)

根 抱

- (1) 10月の調査では中央部で発生が見られ、平年と比べ発生面積は多く、発病程度は

高かった。

- (2) 例年、11月は東部、中央部では発生が増加し、西部では10月と同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 11月の気温は平年より高く、降水量は平年並または少ないと予想されていることや、発生状況から東部、中央部で発生は増加し、西部では少程度の発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：やや少（県下全域）

根 抱

- (1) 10月の調査では東部で発生が見られ、平年と比べ発生面積は少なく、発病程度は低かった。
- (2) 例年、11月はいずれの地域も発生が増加する傾向にある。
- (3) 11月は気温が高いと予想されていることや、発生状況からいずれの地域でも発生が増加し、未発生地域でも発生が見られると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) すすかび病

予 想 発生量：多（中央部、西部）、やや少（東部）

根 抱

- (1) 10月の調査では、中央部、西部で発生が見られ、両地域とも発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年並であった。
- (2) 例年、11月はいずれの地域でも発生が増加する傾向にある。
- (3) 11月は気温が高いと予想されていることや、発生状況からいずれの地域でも発生が増加し、未発生地域でも発生が見られると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：多（中央部、西部）、平年並（東部）

根 抱

- (1) 10月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部、西部で平年よりも多く、東部で平年並であった。発生程度は中央部、西部で平年より高く、東部で低かった。
- (2) 例年、いずれの地域でも11月以降には気温の低下とともに減少する傾向にある。
- (3) 11月の気温は平年より高いと予想されており、野外からハウス内への飛び込みが継続すると考えられることや、発生状況からいずれの地域でも現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 施設栽培では、ハウスサイドや天窓に防虫ネットの被覆を行うなど成虫の侵入防止に努める。また、交信かく乱剤（合成性フェロモン剤）の利用も有効である。
- (2) 卵塊を除去し、幼虫は見つけ次第捕殺する。なお、卵塊は植物体だけではなく防

虫ネット等にも産み付けられるので注意する。

- (3) 老齢幼虫になると食害量が多くなるとともに薬剤の防除効果が低下するため、若齢期の防除に努める。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避ける。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（中央部）、やや少（東部）、少（西部）

根 拠

- (1) 10月の調査では、東部、中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年並、東部で平年よりやや少なかった。発生程度は両地域とも平年より低かった。
- (2) 例年、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めることなどにより、いずれの地域でも11月以降は減少していく傾向にある。
- (3) 11月の気温は平年より高いと予想されており、野外からハウス内への飛び込みが継続すると考えられることや、発生状況からいずれの地域でも現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵の定着が遅れているほ場では追加放飼を検討する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（東部、中央部）、やや多（西部）

根 拠

- (1) 10月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部、中央部で平年より多く、西部でやや多かった。発生程度は西部で平年より高く、中央部でやや高く、東部で平年並であった。
- (2) 例年、東部、中央部ではタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めることなどにより11月以降やや減少する傾向にある。西部では、10～12月にかけて同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 11月の気温は平年より高いと予想されており、野外からハウス内への飛び込みが継続すると考えられることや、発生状況からいずれの地域でも現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵の定着が遅れているほ場では追加放飼を検討する。

7) ホコリダニ類

予 想 発生量：平年並（中央部）、少（東部、中西部）

根 拠

- (1) 10月の調査では東部、中央部で発生が見られた。発生面積は中央部で平年よりやや多く、東部で少なかった。発生程度は中央部で平年より高く、東部で低かった。
- (2) 例年、東部、西部ではスワルスキーカブリダニ等の天敵が定着し始めること、気温の低下などにより11月以降減少する傾向にある。中央部では、10～1月にかけゆるやかに減少していく傾向にある。
- (3) 11月の気温は平年より高いと予想されており、野外からハウス内への飛び込みが継続すると考えられることや、発生状況からいずれの地域でも減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 常発する地帯では、周辺の雑草や樹木（茶、さざんかなど）が発生源となるので、雑草は除去し、樹木は薬剤を散布して発生予防に努める。
- (2) 最初はほ場の一部の株に被害が出て、その後拡大していくので、初発時に注意し、

少発生のうちに防除を徹底する。

- (3) 天敵の定着が遅れているほ場では追加放飼を検討する。

4 促成ピーマン、シットウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや少（県下全域）

根 抱

- (1) 10月の調査では中央部で発生が見られ、平年と比べて発生面積は少なく、発生程度は低かった。
- (2) 例年、11月はいずれの地域も発生が増加する傾向にある。
- (3) 11月の気温は平年より高く、降水量は平年並または少ないと予想されていることや、発生状況から、いずれの地域でも発生が増加し、未発生地域でも発生が見られると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多（中央部、中西部）、少（東部）

根 抱

- (1) 10月の巡回調査では中央部、中西部で発生が見られ、発生面積は両地域とも中西部で平年より多かった。発病程度は中西部で平年より高く、中央部で平年並であった。
- (2) 例年、11月は中央部、中西部で発生が増加し、中西部では微増する傾向にある。
- (3) 11月は気温が高いと予想されていることや、発生状況から中央部、中西部では発生が増加し、東部でも発生が見られると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 斑点病

予 想 発生量：多（中央部）、やや少（東部、中西部）

根 抱

- (1) 10月の巡回調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積は平年より多く、発病程度は平年並であった。
- (2) 例年、11月はいずれの地域も発生が増加する傾向にある。
- (3) 11月は気温が高いと予想されていることや、発生状況からいずれの地域でも発生が増加し、未発生地域でも発生が見られると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：多（東部、中西部）、少（中央部）

根 抱

- (1) 10月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は東部、中西部で平年より多

く、中央部で少なかった。発生程度は東部、中西部で平年より高く、中央部で低かった。

- (2) 例年、いずれの地域も11月以降には気温の低下とともに減少していく傾向にある。
- (3) 11月の気温は平年より高いと予想されており、野外からハウス内への飛び込みが継続すると考えられることや、発生状況からいずれの地域でも現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 施設栽培では、ハウスサイドや天窓に防虫ネットの被覆を行うなど成虫の侵入防止に努める。また、交信かく乱剤(合成性フェロモン剤)の利用も有効である。
- (2) 卵塊を除去し、幼虫は見つけ次第捕殺する。なお、卵塊は植物体だけではなく防虫ネット等にも産み付けられるので注意する。
- (3) 老齢幼虫になると食害量が多くなるとともに薬剤の防除効果が低下するため、若齢期の防除に努める。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避ける。

5)ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少(中央部)、少(東部、中西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、東部、中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりやや少なく、東部で少なかった。発生程度は両地域とも平年以下であった。
- (2) 例年、11月はいずれの地域も10月と同程度の発生が見られる傾向にある。
- (3) 11月の気温は平年より高いと予想されており、野外からハウス内への飛び込みが継続すると考えられることや、発生状況からいずれの地域でも現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵の定着が遅れているほ場では追加放飼を検討する。

6)チャノキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(東部)、少(中西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、東部と中央部で発生が見られ、発生面積は両地域とも平年よりも多かった。発生程度は中央部で平年より高く、東部で低かった。
- (2) 例年、11月は中央部では10月と同程度の発生が見られ、東部で減少する傾向にある。また、中西部での発生は年間を通して低く推移している。
- (3) 11月の気温は平年より高いと予想されており、野外からハウス内への飛び込みが継続すると考えられることや、発生状況から中央部では現在の発生が続き、東部では減少傾向に推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時から選択性殺虫剤による防除を徹底する。
- (2) 果樹類や樹木類に広く寄生することから、施設内にこれらの植物を持ち込まないようにする。

7)タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(東部)、平年並(中西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は東部で平年より多く、中央部、中西部で平年並であった。発生程度は東部で平年よりやや高く、中央部、中西部で平年以下であった。

(2) 例年、11月は中西部では10月と同程度の発生が見られ、東部、中央部ではほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めていることなどにより、やや減少傾向で推移する。

(3) 11月の気温は平年より高いと予想されており、野外からハウス内への飛び込みが継続すると考えられることや、発生状況から中西部では現在の発生が続き、東部、中央部では減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵の定着が遅れているほ場では追加放飼を検討する。

8) ホコリダニ類

予 想 発生量：やや多（東部、中央部）、平年並（中西部）

根 拠

(1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は東部、中央部で平年より多く、西部で平年並であった。発生程度は東部で平年より高く、中央部、中西部で平年以下であった。

(2) 例年、東部、中央部ではスワルスキーカブリダニ等の天敵が定着し始めることや、気温の低下などにより11月以降減少する傾向にある。中西部では、10～12月にかけて同程度の発生が続く傾向にある。

(3) 11月の気温は平年より高いと予想されており、野外からハウス内への飛び込みが継続すると考えられることや、発生状況から東部、中央部では減少傾向で推移し、中西部では現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 常発する地帯では、周辺の雑草や樹木（茶、さざんかなど）が発生源となるので、雑草は除去し、樹木は薬剤を散布して発生予防に努める。
- (2) 最初はほ場の一部の株に被害が出て、その後拡大していくので、初発時に注意し、少発生のうちに防除を徹底する。
- (3) 天敵の定着が遅れているほ場では追加放飼を検討する。

5 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：やや少（中央部）

根 拠

(1) 10月の調査では、平年と比べ発生面積は少なく、発病程度は低かった。

(2) 例年、11月は発生が増加する傾向にある。

(3) 11月は気温が高いと予想されていることや、発生状況から増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：やや少（中央部）

根 拠

(1) 10月の調査では、平年と比べ発生面積は少なく、発病程度は低かった。

(2) 例年、11月は発生が増加する傾向にある。

(3) 11月は気温が高いと予想されていることや、発生状況から増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：多(中央部)

根 抱

- (1) 10月の調査では、平年と比べ発生面積は多く、発病程度は高かった。
- (2) 例年、11月は発生が増加する傾向にある。
- (3) 11月の気温は平年より高いと予想されていることや、発生状況から本病の媒介虫であるタバココナジラミの野外からハウス内への飛び込みが続き、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部)

根 抱

- (1) 10月の調査では、平年と比べ発生面積は多く、発病程度は高かった。
- (2) 例年、11月は発生が増加する傾向にある。
- (3) 11月の気温は平年より高いと予想されていることや、発生状況から野外からハウス内への飛び込みが継続し、現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。
- (2) 防除効果が高い薬剤が少ないため、開口部のネット被覆(0.4mm目以下)天敵の利用など、他の防除方法も組み入れる。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ(こうち農業ネット) <https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病害虫防除指針 etc.)